

# 見立礫岩を石材にする風間鉱山

村尾 智<sup>1)</sup>

宮崎県北西部の見立地方にはさまざまな色の礫を含む美しい礫岩が分布している。見立礫岩と呼ばれるこの岩石は非常に堅く石材として適しているため1989年から日本技術サービス(株)風間鉱業所により採掘されている(第1図;写真1)。製品は磨いた石盤だが主に浴室のタイルや(写真2)石碑(写真3)、ビルの外壁などに使用されている。

採掘されている見立礫岩は見立層とも呼ばれ、新第三紀に活発な鉱化作用の行われた尾平鉱床区の中に小規模に分布している(第2図)。地層はほぼ水平で火山岩類の真下に存在し、花崗岩によってホルンフェルスになっている。堆積の時代については古第三紀とする説(永井, 1956)と新第三紀とする説(斉藤ほか, 1958)があるが、鉱石礫を産するので(村尾・松本, 1991)新第三紀とする方が良いであろう。

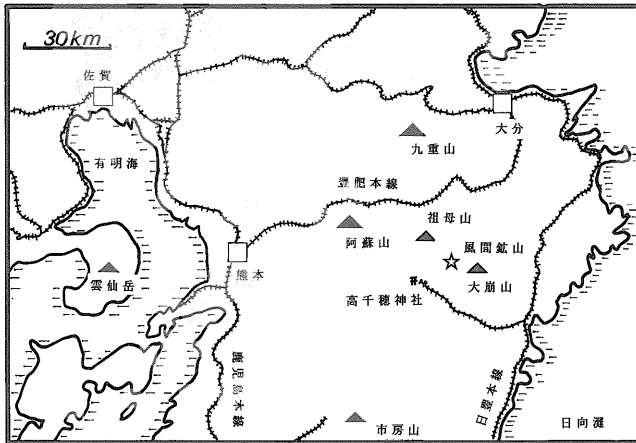
石材はうす茶色の部分と緑色の部分が混ざった外観を呈する。これは緑泥石を多量に含んだ基質と泥や砂を主とする基質が混在するためである。礫の種類もさまざまである。風間鉱山の切羽では泥岩と砂岩ホルンフェルスの礫が多いが、場所によっては花

崗岩が多く、その他にチャート、緑色岩類、変成岩類などが存在する。礫形は亜円から亜角礫が多い。露頭では分りにくい切羽の新鮮な面では硫化物を含む石英脈や緑色岩の礫も確認できる。こうしたさまざまな種類の礫と不均質な基質のくみあわせが石材を美しく、かつバラエティーに富むものになっている。なお製品の価値を下げる微細な割目は現在のところほとんどみられない。

本鉱業所では10月末より石材加工場に変電設備が整い大型機器使用が可能となったため製品完成までの時間がぐっと短縮された。製品は千葉県東金道路野呂パーキングエリアなど建設関係に見る事ができるが、装飾品、調度品の試作も始まったのでさらに幅広い用途で使われるようになろう。

メモ：日本技術サービス風間鉱山事業所(佐保嘉登 所長)

〒882-04 宮崎県西臼杵郡日之影町見立 2359-2



第1図 風間鉱山の位置。宮崎県の北端にあり、高千穂神社に近い。

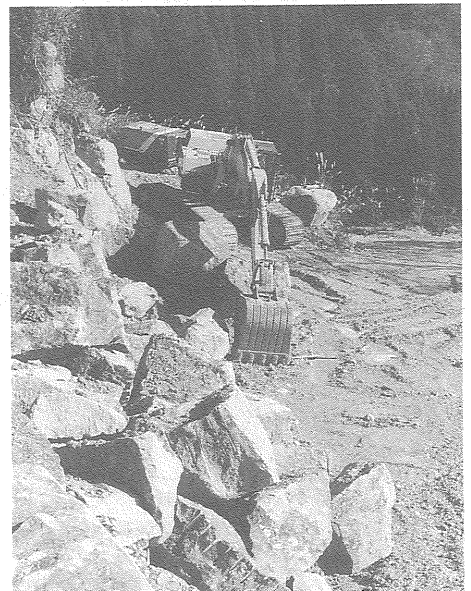
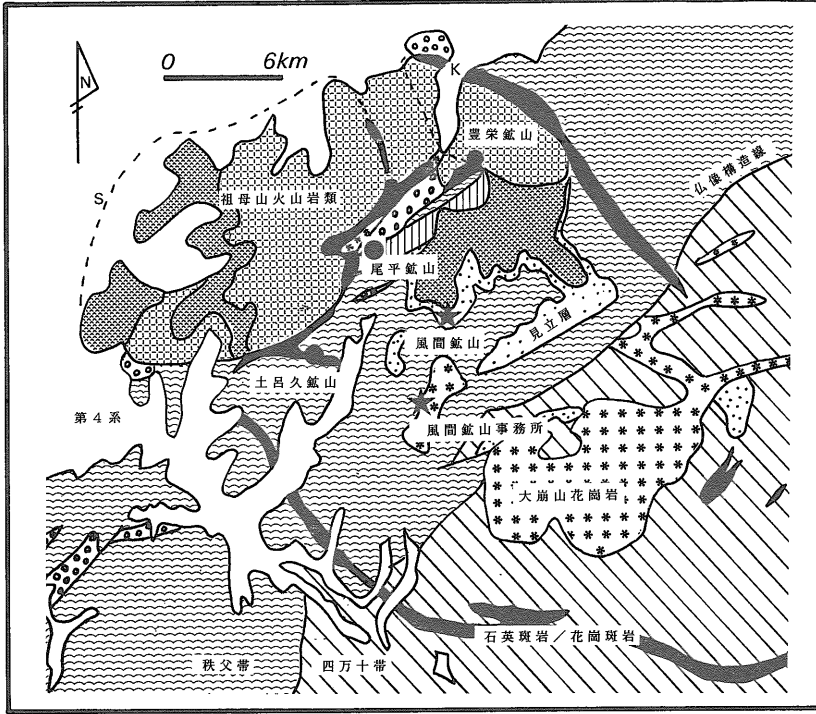


写真1 風間鉱山露天掘現場。

1) 地質調査所 鉱物資源部

キーワード：石材, 礫岩, 見立層, 風間鉱山

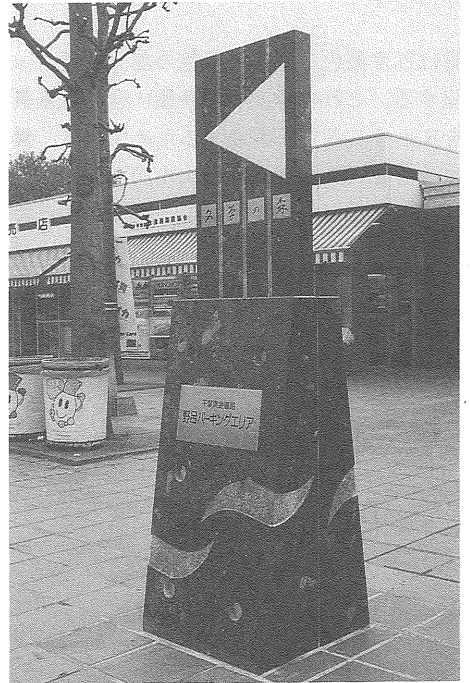


第2図  
風間鉱山周辺の地質概略（地質調査所発行50万分の1地質図「鹿児島」および Takahashi, 1986, J. Volcanol. Geotherm. Res., 29, 33-70 を参考に作製）

写真3（下）  
千葉県東金道路の野呂パーキングエリアにある案内板。



写真2 風間鉱業所1階浴室。見立礫岩がタイルとして使用されている。



MURAO Satoshi (1992): Building stone of the Mitate conglomerate.

参考文献

村尾 智・松本哲一(1991)：尾平鉱床区祖母山火山岩類の K-Ar 年代。地調月報, 42, 497-502。  
永井浩三(1956)：石槌山第三紀層の地質時代と西部日本古第三紀の古地理。愛媛大学紀要第II部, 第II巻, p. 145-154。  
斉藤正次・神戸信和・片田正人(1958)：三田井地域の地質。地域地質研究報告 5 万分の 1 地質図幅。地質調査所, 77p。

〈受付：1992年1月31日〉